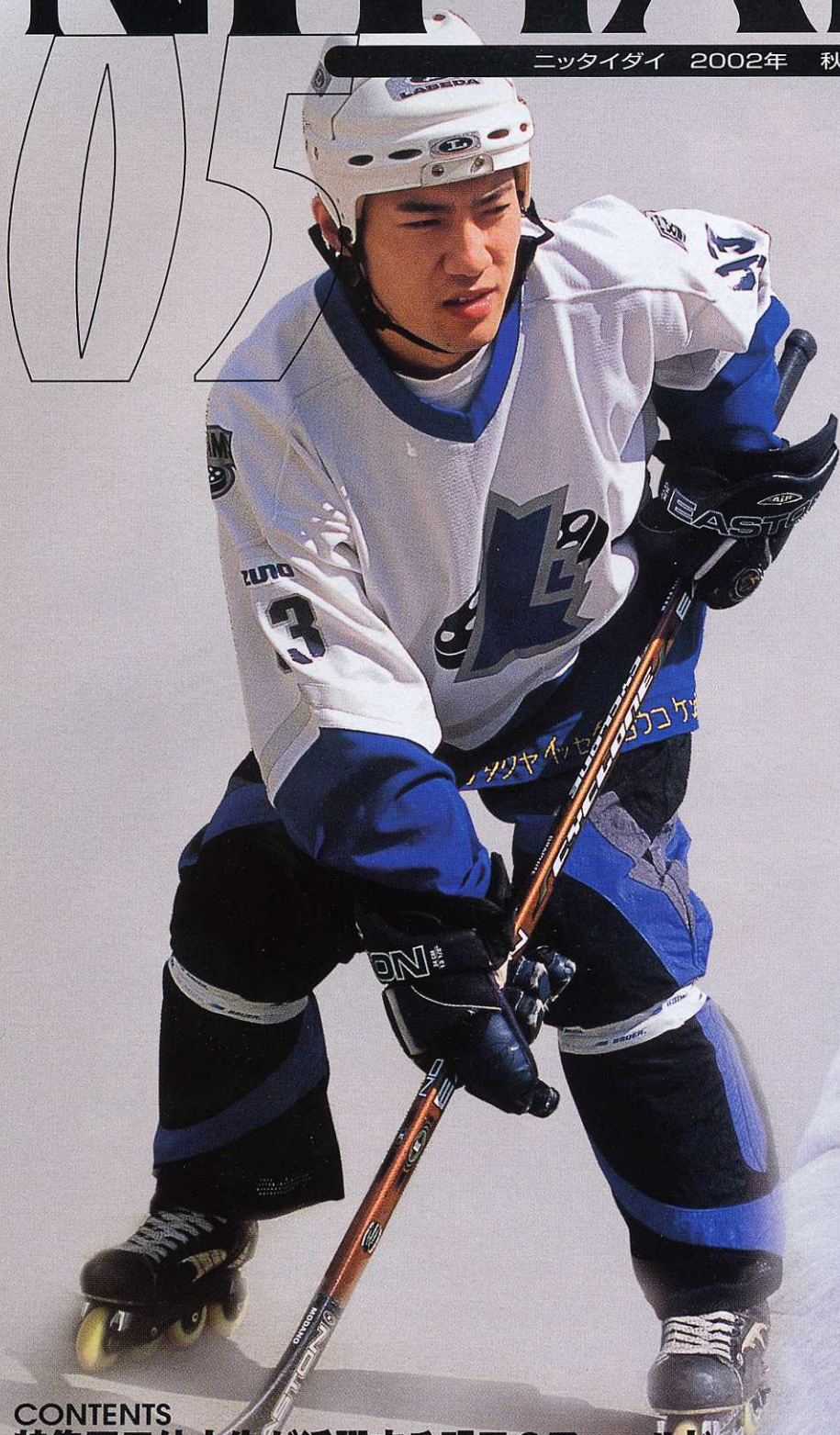


スポーツ文化の風を発信する

NITTAI

ニッタイダイ 2002年 秋



CONTENTS

特集■日体大生が活躍する明日のフィールド——1

特報!■「第14回アジア競技大会」韓国・釜山——13

INTERVIEW●アスリートたち——11

クラブ情報●上半期 クラブの主な大会成績——14

NEWS●上半期ニュース——15

OPINION●高校生に見る日体大の魅力度——17

MY VOICE●みんなの広場——18

INFORMATION●dot. NITTAI——19

日活日躍体のす大生が ワールド

【特集】

< NITTAIDAI の就職領域の検証 >

深刻な不況の長期化を反映して「就職冬の時代」が続いている。まだまだ先の話、とのんびり構えている学生諸君も多いでしょうが、大卒だから就職は出来るという時代は最早過去の話である。世界経済のグローバル化の流れの中で従来の日本型経済システムからの転換が図られつつある現在、採用者側も「自分で考え判断し、外に向かってたくましく立ち向かえる人材の輩出」を待ち望んでいるという。大学での学生生活で何を学び、人間的諸能力をどれだけ磨けたかが本格的に問われる時代に入ったのである。

本学の卒業生が進む職領域は、教育／公務員／トレーナー・スポーツ指導員／一般企業の4分野に大きく分けることが出来る。今回の特集では、それら4つのフィールドで活躍しているOB・OGや識者に語ってもらい、学生諸君がそれぞれの個性や能力を生かせる職業選択をするために、今何をなすべきかを一緒に考えてみたいと思う。

悲観することはない。大学4年間、短大2年間の勉学・課外活動で培った日体大生としての、人間としてのくっきりとした輪郭に自信と確信を持ち、社会という大きなフィールドに踏み出してほしい。



学生時代は長いようで、短い。
就職課を大いに活用して、
自分の目標を実現しましょう!!

■就職課の活動

本学学生の進路は、教員・公務員・スポーツ指導員・企業あるいは進学と大きく分かれています。就職課では、各自が望む道に進むことができるよう、一人ひとりの希望と個性に合わせた個別面談をはじめとして、就職ガイダンスや就職セミナーの定期的な開催、就職活動のための「特別講座」の開設、就職ガイドブックの発行など、きめ細かい就職支援体制をとっています。こうした体制を大いに活用して、各自の希望をかなえてください。

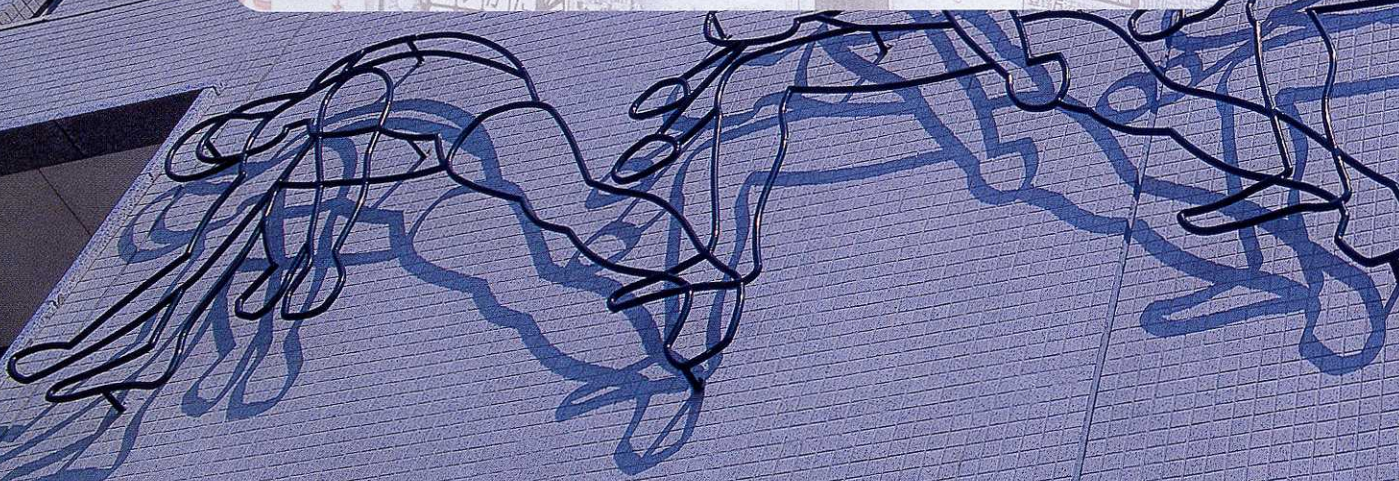
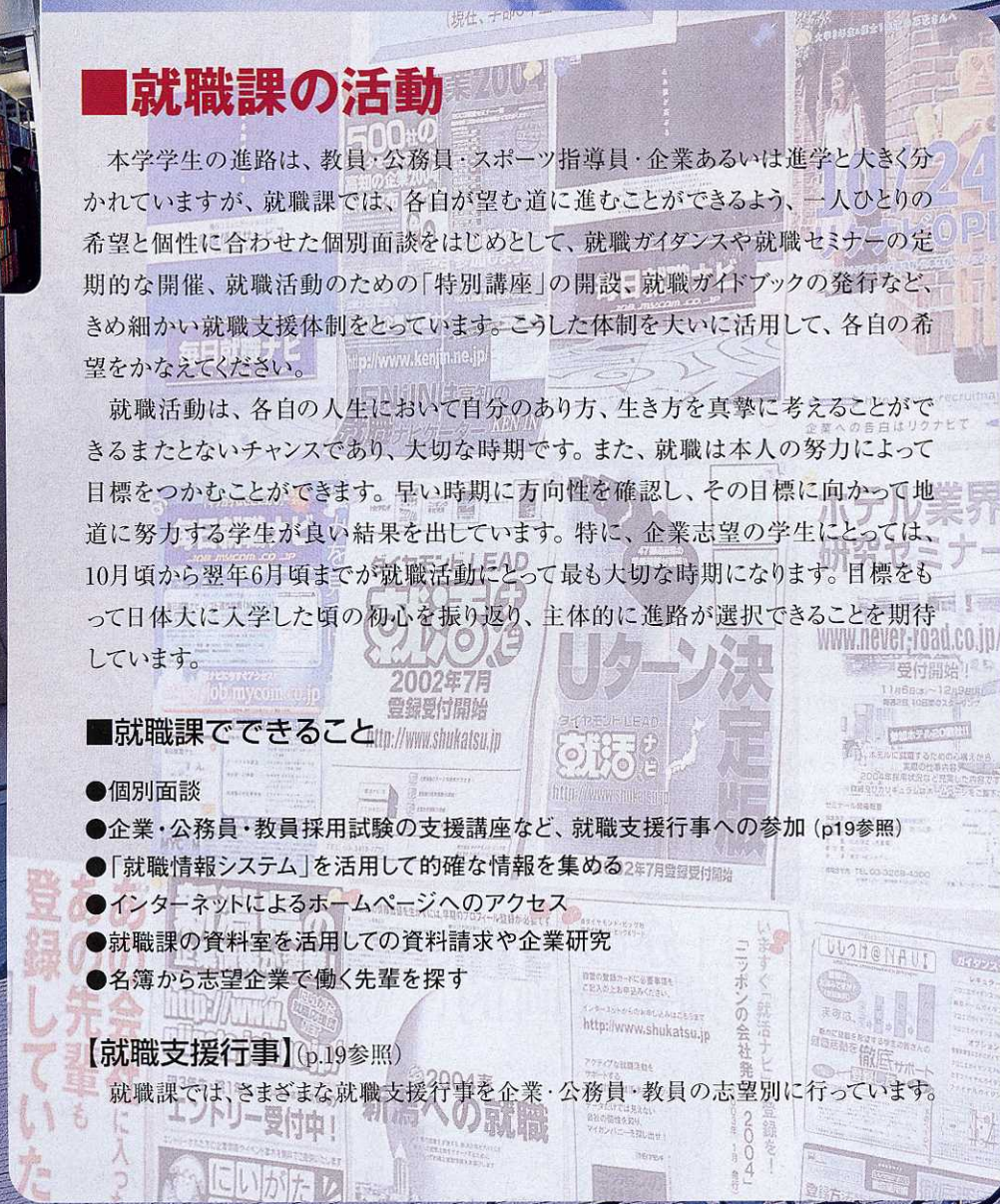
就職活動は、各自の人生において自分のあり方、生き方を真摯に考えることができるまたとないチャンスであり、大切な時期です。また、就職は本人の努力によって目標をつかむことができます。早い時期に方向性を確認し、その目標に向かって地道に努力する学生が良い結果を出しています。特に、企業志望の学生にとっては、10月頃から翌年6月頃までが就職活動にとって最も大切な時期になります。目標をもって日体大に入学した頃の初心を振り返り、主体的に進路が選択できることを期待しています。

■就職課でできること

- 個別面談
- 企業・公務員・教員採用試験の支援講座など、就職支援行事への参加 (p19参照)
- 「就職情報システム」を活用して的確な情報を集める
- インターネットによるホームページへのアクセス
- 就職課の資料室を活用しての資料請求や企業研究
- 名簿から志望企業で働く先輩を探す

【就職支援行事】(p.19参照)

就職課では、さまざまな就職支援行事を企業・公務員・教員の志望別に行っています。



Field-1

教育分野

教員採用試験は、公立・私立を問わず相変わらず採用者の絶対数が少ないことから、「狭き門」になっている。また、学校教育の現場では教師の総合的な資質向上が要求されていることから、各自治体の教員採用試験でも以前より、一層教員としての適正を見るようになっている。このような「狭き門」を突破して教員を目指すには、自分の性格・資質が教師向きかどうかを客観的に検証するとともに、揺るぎない決意を持って採用試験に臨めるかどうかにある。今求められる教員像を教員歴の長いお二人から伺った。

【現状と展望】

「狭き門」でも、自分の適正を検証し、揺るぎない決意で早くから受験準備を計画的に立てて臨めば、突破できます。

■教員採用の現状

教員採用試験は、児童・生徒数の減少と教員の退職者の少なさから、各都道府県の採用枠がみな一様に減少の一途をたどっています。その傾向は私立学校も同じです。このため、年々、教員志望者にとって大変厳しい状況になっています。

また、戦後教育の見直しの流れの中で出てきた学校教育の質的変換の要請を受け、教育の現場では教師の総合的な資質の向上が要求されています。各自治体の教員採用試験にもそうした傾向が反映され、「模擬授業」を課して教員としての適正を見たり、経験豊かな人材を求めるために年齢制限を引き上げたりと、新たな試みが行われています。

このような「狭き門」を突破して教員を目指すには、単なる教員への憧れだけでは突破できません。自分の性格・資質が教師向き（指導力・協調性・包容力・緻密さ・思いやり等……）かどうかを客観的に検証するとともに、揺るぎない決意を持って採用試験に臨めるかどうかにあります。

就職課では、そうした厳しい状況下でも教員への道に進むことができるよう、教員養成のための研修会を増やすとともに、さまざまな就職対策の支援行事をきめ細かく実施しています（P

《公立学校教員採用試験の流れ》

4月下旬～6月下旬

募集要項配布・受付

7月上旬～下旬

＜第一次選考＞
（教職教養、一般教養、専門教養、論文、面接、実技等）

8月上旬～9月中旬

第一次選考結果発表

8月上旬～10月中旬

＜第二次選考＞
論文、面接、実技

9月下旬～11月上旬

合格発表・名簿掲載

2月上旬

面接

4月1日

採用

■公立学校教員

19参照）。昨年は、教育現場で活躍する諸先輩からの情報講座と、経験豊富な教員による指導、面接試験対策として集団討議の体験指導などを実施しました。

厳しさを増しているとはいえ、採用を全く行っていない教育委員会はまれであると思います。従って、受験する都道府県や学校の種別を早い学年のうちから絞り込み、受験準備を計画的に（年次計画・月の計画など）1年以上前から学習計画は必要。まずは一次試験の突破を目指すこと（消化し、挑戦してください）。

■私立学校教員

私立は補充採用が主で、定期採用はほとんどありません。そのため、採用募集の情報は、各都道府県の私学協会（東京都なら東京都私立中学高等学校協会）で私学教員適性検査を受け名簿登録し、募集情報を待つ／あるいは大学に寄せられる求人情報や新聞等の公募情報を見る／自分の母校の先生方から情報を提供してもらうなど、限られた情報をこまめにチェックしてください。

採用状況は厳しいが、教員になるという強い意志を持って最後まで諦めずに向かってほしい。



野口和矩さん

学校法人上野塾 東京高等学校校長

PROFILE

のぐち・かずのり●1962年3月日本体育大学体育学科卒業。その後、66年立正大学に学士入学、68年同大卒業、体育教諭の他、国語・書道の教諭資格を取得。区立中学校の教員を振出しに、都立高校の教員を経て校長職を歴任、99年3月大田区立大森第七中学校校長職を停年退職、同年4月より現職。

私の時代は公立校の採用試験が年2回もあり、志望者のほとんどが教員になれたものでしたが、今は採用の絶対数が少なく、教員への道は狭くなっています。私立校にしても、各校の規模・教育方針・採用方針により採用方法が異なるだけでなく、補充採用が主で定期採用はほとんどありません。

また、採用状況の厳しさに加え、求められる教員像も変化してきています。教育現場にも競争を促す規制緩和が導入され、学校教育の質的変換が求められている現在、現場では教師の総合的な資質の向上が要求されています。

体育教員でいうと、水泳など実技のこなせる先生が求められています。特に、公立校では異動があり、自分がやってこなかったスポーツでもクラブの顧問や部長をやられるときがあるからです。そのためには、やはり原点に立ち返って、体育実技のオールラウンドな能力を大学の4年間で鍛えてほしいと思います。

今は、漠然と教員になりたい、子どもにスポーツを教えるのが好きだから、という動機だけでは突破できない「狭き門」ですが、教員としての適性があり、教員になるといって揺るぎない意志があるならば、道は開けると思っています。私事になりますが、現在、私の息子も日体大を卒業して区立中学校の体育教員をしています。しかし、順調に「狭き門」に入れたわけではなく、4年間も非常勤講師をしてからやっと就けたのです。このように厳しい状況下でも、諦めず、最後まで教員になるという強い意志をもって向かっていけば、必ず道は開けます。30歳位までは、立ち向かってほしいですね。

逆風であつても、今は昔と違い、大学側が丁寧に指導してくれれます。最近では、講師や就職課にも現場を経験した先生方が多く、そうした方々の指導に付いていけばきつと道が開ける筈です。諦めずに頑張ってください。

(10月2日 東京高校にて)

活躍するOB

生徒は機械ではない。一人ひとりの個性に合わせた教育は、マニュアルのない1回限りの真剣勝負でもあります。



佐熊裕和さん

桐光学園高等学校教諭・サッカー部監督

PROFILE

さくま・ひろかず●1986年3月日本体育大学体育学科卒業。在学中はサッカー部所属。同年4月より桐光学園高等学校教諭に採用され、同年9月より同校サッカー部監督に就任、現在に至る。同校サッカー部を三大会である関東大会・インターハイ・全国選手権のいずれか一つ以上に毎年出場できるまでの名門校に育てあげ、中村俊輔(イタリア・レジーナ)ら優秀な選手を輩出する。

教員志望でしたが、サッカー選手の誰もがJリーグでプレイしたいと願うように、私も学生時代、機会があれば、その前身である日本リーグに進みたい希望がありました。しかし、4年の時に右膝の内足靭帯を故障してしまい、選手を続けるのが難しくなりました。そうであるなら、サッカーを通じていろいろな形で指導したいという気持ちもあつたので、体育教員という選択肢を最終的には選んだわけです。しかし、海外遠征に出かけていたので、既に公立の採用試験は終わっていました。本校に入ったのは、たまたま神奈川県私立協会に名簿登録をしていたところ、桐光学園で採用試験があるとの連絡が入り、受験したからです。一般的な体育教員として採用されました。

監督をやろうになったのは、入った年の夏過ぎくらいからです。最初の1年目は、全国大会にも出られるように強くしたいという願望と気負いから無茶な要求をし、指導とはほど遠いものでした。大学4年まで現役でやっていて、指導経験もなく監督になったので、高校生ならこの位は出来るだろうという感覚だけで、全て自己流でした。その結果、30人位いた部員がその年の最後は2人になっていました。そこからでした、本当のスタートは、今は全く、自分の指導法も変わりましたが、当時辞めた子たちには可哀想なことをしました。

本校は中学・高校が各男子部・女子部に分かれており、女子も含め今まで、中1・高3まで全ての学年を教えました。今はサッカーで忙しいですが、以前は担任を受け持ったこともあり、高1から高3まで3年間担任を持ちました。クラブであれクラスであれ、やはり教え子が卒業後に遊びに来校してくれた時は、教員をやっているで良かったと思います。

教員の仕事は毎日難しく、決して楽な職業ではないです。今は時代も変わり、基本的資質として、生徒とうまくうち解けられるだけの能力がないといけないし、努力も必要になってきます。生徒は大量生産で作られる機械とは違い、みな一人一人個性が違うので、扱い方のマニュアルなどはなく、1回限りの真剣勝負の気持ちで接しています。だからこそ、また教員はやりがいのある職業だとも思います。

(10月16日 桐光学園高校にて)

Field-2

社会体育分野／社会福祉分野

公務員の分野は、毎年、着実に日体大生が採用されている職領域で、特に消防士・警察官・自衛官などの職種においてその評価は高く、多くの卒業生が活躍している。しかし、本格的な高齢化社会を迎えつつある現在、公務員職でも、高齢化・生涯学習・環境問題など新しい課題に取り組み時代を切り拓く有能な人材が求められている。来年は2000年にスタートした健康学科・社会福祉コースで学んだ学生の卒業年度でもあり、公務員の職領域にこだわらず、社会教育や社会福祉の分野に携わる仕事を紹介したい。

【現状と展望】

社会体育やスポーツ振興を目指す人は、
スポーツ経営学や社会学をしっかり学んでほしい。

私も教員を目指して日体大に入學したのですが、社会教育主事を選んだ理由は、社会という広いエリアで経営の立場からスポーツ振興に携われる魅力を感じたからです。その後、機会に恵まれ外国のスポーツ事情を調査するため欧州へ研修生として派遣され、スポーツ政策の重要性とそれを担う専門職員の必要性を痛感しました。

社会体育といえは、スポーツ事業の実施や公共スポーツ施設の管理・運営などが主な仕事と思われがちですが、社会で展開されるスポーツ全般を意味し、現在では「生涯スポーツ」という言葉が一般的になっています。

社会教育主事の役割も事業の企画立案から、生涯スポーツ社会を実現するための政策能力が求められる時代へと変わってきています。例えば、指導者養成や団体育成、施設建設や学校施設開放、健康づくり啓発のためのイベント企画、最近では、総合型地域スポーツクラブ育成や民間スポーツ施設、企業との連携など、その役割も多岐にわたります。また、それに必要な予算獲得という重要な職務もあり、大規模自治体では、その額（スポーツ振興費）は数十億円にも上ります。「人・物・金・情報」という経営資源を有効に活用し、多くの人がスポーツ活動に参加していける環境や仕組みをつくっていくことは、非常にやりがいのある専門的な仕事と自負しています。学生には、生涯スポーツ（社会体育）の素晴らしさ、奥深さを再認識していただきたい。

今までの日本のスポーツ学は、トレーニング学や運動生理学、コーチ学など身体やチームという個や組織の力を伸ばすことに重点が置かれてきたように感じられます。オリンピックやW杯サッカーではそこそこの成績を残し、またプロスポーツも定着してスポ

ーツが市民権を得たかのような錯覚に陥りがちです。しかし、一般人のスポーツ参加率が先進諸国に比べて非常に低いことに注目していただきたいのです。そういった意味からすると、日本はスポーツの先進国にはまだ成り得ていません。スポーツが選ばれた人や特別な人のものであつては、文化としてなり得ないからで、市民生活に浸透させることが、最も重要な課題と言えるでしょう。また、スポーツを商品サービス・イベント企画・スポーツ製品の開発などとして如何に社会貢献をしながら利益追求をしていくかというスポーツ産業の領域も今後注目されるでしょう。国民の多くが生活の一部として身近なところでスポーツができる環境や条件整備が急務であり、その仕組みをつくっていく専門職員を育成することが、日体大の責務と考えます。そのためには、スポーツの意義や社会的効果を理解することが必須であり、スポーツ経営学や社会学、生涯スポーツ論、スポーツマネジメントなどの学問をしっかり学んでください。

ところで、体育系大学の就職先といえは、学校体育をイメージしますが、それはわずかな範囲なのです。生涯スポーツに携わるほうがはるかに多く、スポーツ産業領域を入れると、かなり大きな就職マーケットになります。特に、これから視野に入れているのは、全国に500以上ある生涯学習関連の公益法人です。「派遣法」の成立により公務員の派遣が制限されるため、公益法人の就職も枠が広がる可能性があります。

最後に、スポーツを振興するには専門家としての知識や能力に加え、夢と情熱を持った人材が不可欠です。私は、それを日体大生に期待しています。

(9月28日 本学 東京・世田谷キャンパスにて)



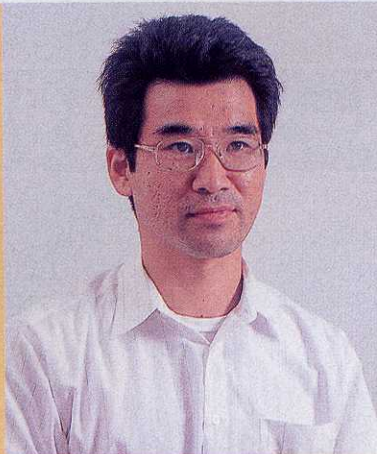
大竹弘和さん

新宿区教育委員会社会教育主事
(財)日本健康スポーツ連盟スポーツ政策担当
当研究員／日本体育大学非常勤講師

PROFILE

おおたけ・ひろかず ●1978年日本体育大学体育学科卒業。社会教育主事専門試験に合格し、新宿区教育委員会社会教育主事に採用される。その後、筑波大学大学院修士課程修了(スポーツ経営学)。青年の船講師として上海・北京・天津などを訪問、また教育委員会より研修生としてヨーロッパ(6カ国)へ派遣される。社会教育主事としての仕事のかたわら97年4月より本学で生涯教育全般を講義、「社会教育特講Ⅲ」「生涯教育総論」を担当。文部科学省の委託事業委員として体育指導委員会調査など全国レベルの調査を行い、また、(財)日本健康スポーツ連盟スポーツ政策担当研究員として、休日は講演で全国を駆け回る。主要著書:「Change みんなのスポーツQA」(共著・不味堂)、月刊「トレーニングジャーナル」に連載

知識・技術のみならず、強い意志と心優しい福祉のプロが求められている。



鈴木英幸さん

神奈川県松田町役場 保健福祉課

PROFILE

すずき・ひでゆき●1988年3月日本体育大学体育学科卒業。在学中はサッカー部所属。卒業後、私立相洋高校(神奈川県)で教員として同校サッカー部の監督を行っていたが、91年4月縁あって松田町役場に採用される。教育委員会に8年間勤務、その間、社会教育主事の資格を取得、99年4月保健福祉課に異動、現在に至る。

(10月4日 松田町役場にて)

「現場が福祉の出発点」と言われるように、私も現場を通して高齢者の立場にたって気持ちを理解することの大切さを知りました。確かに、一般行政職は異動が多く、専門知識は不足しています。しかし、誰もが社会の一員として、その人らしい安心で快適な生活を送れるよう自立を支援するために、社会福祉士やケアマネジャーなど専門職の人たちと連携しながら、援助事業を展開しています。

今後、本格化する高齢化社会に向けて、社会福祉に従事する人の需要は益々高まります。将来、皆さんが、自治体の関係機関、社会福祉関係団体、社会福祉施設等、どの方面に進むにしても、社会福祉に従事する者は知識・技術だけでなく、高齢者や社会的障害をもつ人の痛みがわかるとともに、人に対する優しく温かい心遣いを養うことが大切だと思います。また、福祉施設の現場は想像以上にハードです。一生の仕事なんだという強い意志が必要です。さらに、利用者とのコミュニケーションや職員同士のチームワークも必要となります。日体大生は、スポーツを通じて、達成に向けての強い意志や敗者の思いやり、コミュニケーション、チームワークを学ぶので、こうした社会福祉の分野は恰好だと思います。

現在、私は保健福祉課福祉班にいますが、実は、ある私立高校で教員をしながらサッカー部の監督をしていました。縁の深かった松田町の町長から「小・中学生にサッカーを教えてほしい」との要望もあり、悩んだ末、スポーツを通して故郷松田の活性化に貢献したいとの思いから転職したのです。最初は生涯学習課の社会体育班で、教育委員会に配属されて社会教育主事の仕事を就いていました。しかし、公務員の一般行政職は異動が恒例で、8年間の勤務の後、現在の福祉課に異動したわけです。

ちょうど、2000年4月から始まる介護保険制度の準備作業の頃で、最初は、要介護認定やケアマネジャーなど、用語の意味も全くわからず、体育の先生から社会科の先生になった気分でした。でも、「スポーツで育った者は苦しい」とき思い出せ。投げ出してはいけない」という恩師の言葉を思い出し、頑張ってきた。

活躍するOG

ハードで責任ある仕事ですが、屈託のない童心のような笑顔に接すると癒されます。



岡留真由美さん

社会福祉法人清輝会 知的障害者更生施設「アガベの里」
余暇副主任・苦情解決担当

PROFILE

おかどめ・まゆみ●1993年3月日本体育大学社会体育学科卒業。在学中はカヌー部所属。卒業後、スポーツ公共施設の管理運営会社フクシエンタープライズ社に入社、府中市総合体育館や東京体育館などに指導員として派遣される。仕事の中で障害者にスポーツ指導ができない“無力な自分”を発見、同社に5年間勤務の後、障害者に体育・スポーツの楽しさを伝えたくて、97年4月国立身体障害者リハビリテーションセンター学院リハビリテーション体育学科に入学、99年3月同校を卒業。99年4月、創立されたばかりの知的障害者更生施設「アガベの里」に就職、現在に至る。本学「介護等体験」のオリエンテーションで講師として3回講演している。

(10月4日 アガベの里にて)

知的障害者更生施設は、18歳以上の知的障害者を対象に生活指導や、自立した生活を送れるように作業指導を行う施設で、私が勤める「アガベの里」は余暇を楽しむ支援に重点をおいた、平均年齢45歳の方々が入所する施設です。

知的障害者関係の福祉に進みたいと思ったきっかけは、埼玉の障害者交流センターで、ボランティアで知的障害者の方にカヌーを教えている時に「この先は早瀬で流されちゃうから、行かないで」と注意していたのに、川下りが楽しかったらしく、そのままガッツポーズをして下に行ってしまったんです。その笑顔を見た時に「アア、なんていいんだろう」と思ったんです。その後、浅瀬にはまた彼の艇に縄をつなぎ、必死に漕いで何とか岸にたどりついたのでよかったですが、こっちは参りましたね。そして、千葉県福祉人材センター(センターは各都道府県にあり、私は千葉県出身なので)に相談に行き、福祉フェアに参加してこの施設を知り、応募したのです。

ここでは自分の得意分野を生かし、余暇とスポーツ大会等の行事を担当しています。障害者や高齢者ほどスポーツが大事で、みんな、音楽を流すと、高齢者でもジャンプしたり、身体を動かす楽しさを知っているんです。特に、簡単なリズム体操や風船バレーが喜ばれますね。

日々の仕事の中では、「利用者さん」(ここでは入所者の呼称)が求めているものを理解するのに苦労したり、スポーツ活動でルールがちよと複雑になると理解してもらえないもどかしさがあります。でも、運動した後、「先生、また体操やろうね」と言われた時は嬉しくなります。また何よりも、みんないつもニコニコしていて、その屈託のない童心のような笑顔に接すると、逆に私たちが癒されます。それがあから、3交代の勤務でハードで辛くても頑張れる、のだと思います。

大げさかもしれませんが、この仕事はその人の人生を左右する責任ある仕事で、面白くやりがいがある仕事です。福祉でも体育・スポーツの指導者を求めている、また基本的に、知的障害者は元気な人や明るい人が好きで、そういう人に近づいて来ます。そうした点からも、日体大生にはピッタリの仕事です。一緒に頑張りたいですね。

Field-3

トレーナー・スポーツ指導員分野

近年、野球・サッカー・バレーボール・陸上競技などの種目で「トレーナー」の活躍を目にし、その職業を目指したいと思っている学生も増えていると思う。しかし、日本ではトレーナーの呼称がさまざま、各職業の活動も異なるのに、ATC(アスレティックトレーナーの有資格者)と鍼灸師・マッサージ師・指圧師・整体師などがトレーナー職として渾然一体となって括られている。ATC取得の意味と、日本で「トレーナー」に就く場合の注意点や問題点を3人の資格取得者に語っていただいた。

《日本のトレーナーの分類》

■【医療資格】

鍼・灸師、あん摩マッサージ指圧師、柔道整復師、理学療法士など

■【日本体育協会認定資格】

日本体育協会公認アスレティックトレーナー

■【NATABOC認定資格】

NATABOC公認アスレティックトレーナー(ATC)

■【トレーニング指導】

CSCS、CPT、健康運動指導士、体育系大学出身者など

《現状と展望》

トレーナーには4つのタイプがあり、目指すタイプを明確にしてステップアップしていったほしい。

学生の皆さんは、「トレーナー」と聞いてどのようなイメージを持っていますか。日本の場合、大変広い概念で捉えられています。例えば、プロ野球やプロサッカーなどのチームに所属して活躍している人もいれば、民間のスポーツクラブで働いているインストラクター、サウナで働いているマッサージ師もトレーナーと呼ばれることがあります。トレーナーの呼称も、アスレティックトレーナー、スポーツトレーナー、ケア・トレーナー、スポーツセラピスト、トレーニング・コーチなど様々ですが、私自身は本学のスポーツ局に所属し、コンディショニング・コーディネーターという肩書きで仕事をしています。

日本のトレーナーを大きく分類すると、医療資格、日本体育協会認定資格、NATABOC(全米アスレティックトレーナー協会)認定資格、そしてトレーニング指導型の4つのタイプに分類できます。医療資格のタイプとは鍼・灸師、あん摩指圧マッサージ師、柔道整復師、理学療法士などの資格保持者です。日本体育協会認定資格およびNATABOCの資格はトレーナーとしての専門教育を受けた後、認定試験に合格した者が与えられます。またトレーニング指導型のタイプは選手の体力向上のためのトレーニング指導が中心で体育系大学出身者、健康運動指導士、NSCA(全米ストレングス&コンディショニング協会)認定資格者がそれらのタイプにあてはまります。

私は在学中、陸上競技部に所属し、1年生の時に怪我をしたことをきっかけとしてトレーナーの道を志したわけですが、卒業後3年間専門学校に通い鍼・灸、あん摩マッサージ指圧師の資格を取得しました。そしてアメリカのインディアナ州立大学に入学し、4年半勉強してNATABOC公認アスレティックトレーナー

学生は、「トレーナー」と聞いてどのようなイメージを持っていますか。日本の場合、大変広い概念で捉えられています。例えば、プロ野球やプロサッカーなどのチームに所属して活躍している人もいれば、民間のスポーツクラブで働いているインストラクター、サウナで働いているマッサージ師もトレーナーと呼ばれることがあります。トレーナーの呼称も、アスレティックトレーナー、スポーツトレーナー、ケア・トレーナー、スポーツセラピスト、トレーニング・コーチなど様々ですが、私自身は本学のスポーツ局に所属し、コンディショニング・コーディネーターという肩書きで仕事をしています。



河野徳良さん

日本体育大学スポーツ局/医・科学サポートスタッフ
コンディショニング・コーディネーター

PROFILE

こうの・とくよし●1988年3月日本体育大学健康学科卒業。91年3月日本鍼灸療養専門学校本科卒業。95年8月米国インディアナ州立大学アスレティックトレーニング学入学。96年6月同大学院アスレティックトレーニング学修士課程入学。99年8月同修士課程修了。01年4月より現職。現在、全日本野球会議日本代表編成委員会医科学サポート部会委員、全日本アマチュア野球連盟選手強化本部医科学部会委員、日本バドミントン協会選手強化本部トレーナー班、JOC強化スタッフトレーナー(野球・バドミントン)、JOC強化スタッフフィットネスコーチ(バドミントン)。
免許・資格:あん摩マッサージ指圧師、鍼灸師、NATABOC(全米アスレティックトレーナー協会)公認アスレティックトレーナー

取得したいという学生には、語学力があるのかどうかを確認します。ほとんどの学生はアメリカに行つてから勉強するつもりでいるのですが、それだったら日本でも何らかの医療資格をとり、その間に英語も覚えて勉強し、それから先のことを考えたほうがいいと指導します。日本の医療資格を持たないでアメリカから帰国しても、就職がなかったらたいへんですからね。

現在、100名程度の日本人ATCがいると思います。プロ野球やJリーグでATCが採用されているケースが徐々にありますが増えつつあります。また、バレーボールでは、日体大出身の岩崎さんを中心にATCが活躍しています。しかし、企業がスポーツから撤退してきていることなど、社会の趨勢はATCにとって順風ではありません。私がアメリカから帰国した当時は、体育系大学出身者で日本の医療資格とATCの資格を合わせて取得しているひとは、私ともう一人の二人しかいませんでした。数年後には20〜30名位に増えることが予想されます。そうなるとますますATCの資格だけでは就職は厳しいと思います。

トレーナーは常に裏方で向上心があり、また謙虚な姿勢に徹していかなければなりません。それがトレーナーに課せられたパーソナリティーだと思っています。トレーナーを志す学生のみならず、自分自身には素晴らしい環境があります。まずは、自分がどのようなタイプのトレーナーを目指すのか、目的を達成するための課題は何なのかを明確にしながら、大学の授業をしっかり受けることが前提です。次のステップはそれからですね。

大学でしっかりとした教育を受けた人間が 明日のトレーナー界を支える。



鹿倉二郎さん

ジャパン・アスレティックトレーナーズ機構 (JATO) 会長
ソニー企業株式会社ウェルネス事業部
NATA公認アスレティックトレーナー

PROFILE

しかくろ・じろう●1973年3月早稲田大学卒業。学生時代はアメリカンフットボール部所属。74年米国シガン大学で4ヶ月の英語研修コースを経て、77年NATA (全米アスレティックトレーナーズ協会) 公認アスレティックトレーナー資格を日本人として最初に取り得。96年6月、日本人ATCの組織としてJATOを設立、会長に就任、現在に至る。

JATO設立の一番の目的は、日本の中でアスレティックトレーナーが職業として確立していくための普及活動ということになります。設立以来、年に1回、トレーナーに関するシンポジウムを開催し、2003の3月には大阪で開催することが決まっています。このシンポジウムがJATOの中心的な事業ですが、会員や受入れ側の企業等に対して情報発信をすべく、調査活動やホームページの充実にも心掛けています。

JATOは全体で110名くらいの会員数ですが、NATAの会員でATC取得者を正会員(80名)とし、ATC未取得者を準会員、他に学生会員とで構成しています。私は、日本で最初にNATAのATCを取得しました。一般企業に勤めていますが、1977年から25年間母校である早稲田大学のアメリカンフットボール部のトレーナーとして活動しています。日体大とはよきライバルですね。

JATOの正会員の約半数が企業や大学のスポーツの現場に就任しています。サッカー、バレーボール、バスケットボール、アメリカンフットボール、ラグビー、女子ソフトボールといった種目がメインです。あとは私のように一般の企業ですね。ここに来てプロ野球やJリーグでの需要が出てきている反面、こういった社会状況ですからチーム自体が無くなってしまうケースも多くあります。これからのトレーナー事情を考えた場合、学校教育の現場で、正課教育の領域は養護教諭が、課外活動分野の健康管理をトレーナーが受け持つような棲み分けが出来れば、トレーナーに対する需要は爆発的に広がると思うのですが…。

日体大には、スポーツ局に河野さんという専属のトレーナーがいらつしやるし、日本体育協会のアスレティックトレーナー資格の適用コースもあります。学生さんには、そういった日体大の恵まれた環境の中でしっかり勉強していただき、あわせて教員資格を持ちながら優秀なトレーナーとして、高校などの現場で活躍していただきたいと思っています。そのことがトレーナーの普及に大きく貢献することになるのです。

(9月26日 ソニー企業株式会社に)

活躍するOB

体育スポーツに通じていて、鍼灸・あん摩マッサージ指圧師の資格があれば、トレーナーとして心強い。



加藤徳也さん

医療法人仁科整形外科
鍼灸・アスレティックトレーナー主任

PROFILE

かとう・とくや●1988年3月日本体育大学体育学科卒業。在学中は、スキー部(ノルディック)に所属。卒業後、運動処方研究室助手を2年間勤め、94年日本鍼灸治療専門学校本科入学、97年3月同校を卒業し、鍼灸・あん摩マッサージ指圧師の免許取得。94年日本体育協会がアスレティックトレーナー制度を創設するが、その第一期生として公認資格を取得。

私は、現在仁科整形外科という医療機関で、鍼灸・あん摩マッサージ指圧師としてお子さんからお年寄りまで幅広く治療を行っています。もう一つのフィールドとして、医院と東京農大三高サッカー部との年間契約により、週に2回トレーナー活動を行い、サッカー部の合宿や大会にも帯同しています。私にとって鍼灸・あん摩マッサージ指圧師という仕事の領域と、トレーナー活動とは密接に結びついているといえます。

私は、教員を目指して日体大に入学し、スキー部で活動していましたが、2年生の時に膝を怪我してしまいました。その後のリハビリやトレーニングについて運動処方の方の堀居教授にアドバイスを受けるようになり、それが縁で堀居教授の研究室の助手として2年間お世話になりました。そして助手一年目の年に、先輩の誘いで日本スキー連盟ナショナルチームのトレーナースタッフとしてお手伝いするという経験もできました。その頃になると教員志望の志は徐々に薄れ、なんとかトレーナーとして一人立ちしたいという気持ちが強くなったのです。

アメリカに行つてATCの資格を取ることも考えましたが、堀居教授や周りの先輩トレーナーのアドバイスにより、迷わず鍼灸の専門学校に通うことにしました。今振り返っても、私にとってその選択は間違っていないかと思っています。ATCの資格だけでは、日本では医療資格を持っていないと就職が大変だからです。経験を積むためにも、まずは選手の身体に触れることが先決です。その後、第一期生として日本体育協会のアスレティックトレーナー資格も取得しましたが、あくまで選手の身体に触れることができる医療資格が私の活動のベースにあるのです。

学生のみならずには、目的意識を持つて勉強して欲しいですね。大学側が、メデイカルな分野で活動しているOBのネットワークを構築していただければ、学生が進路に迷ったときに気軽に相談したり、私たちが確かなアドバイスをすることが可能だと思います。目指すトレーナーの道に遠回りせずに行けるようにお手伝いしたいと思います。

(10月3日 仁科整形外科にて)

Field-4

一般企業分野

この分野は、各人が可能性に挑み、スポーツで培ったさまざまな“エナジー”を発揮できる職領域である。実際、近年は就職者の6割以上が多種多様な分野の企業に就職しており、各企業でも高い評価を得て活躍している。とはいえ、企業を取り巻く経済環境が激変し、採用試験に際しても従来の採用戦略を見直しつつある。企業の採用戦略・求める人物像はどのように変わりつつあるのか？また、それに応えるためには、4年間に於いて何を学び、どんな学生生活を送るべきなのか、紹介したい。

【現状と展望】

時代が求める自己啓発とコミュニケーション能力を、4年間の学生生活で身につけてほしい。

今求められている人物像は、自ら積極的に新しいことに取り組み、問題提起し、それを解決していくこととしている人材です。そして、採用選考におけるキーワードは、「自己啓発」と「コミュニケーション能力」です。「自己啓発」とは、自己研鑽に加えて、ビジネススキルの視点から目の前を通り過ぎていくビジネスチャンスに敏感にキャッチできるアンテナを張り巡らせることです。

一方、「コミュニケーション能力」とは、相手と親しく対話ができる能力などを駆使して顧客のニーズを掴まえ、如何に自社のビジネス利益に直結する有利な情報を収集できるかの能力をさ

求めている人物像も変わっています。1・2年生にはまだピンとこない話かもしれませんが、3年生は、もうすぐ始まる就職活動において、企業がどんな人材を求めようとしているのかを押さえて自己PRする必要があります。それを押さえない従来の自己PRでは、人事担当者の心を動かすことはできません。

当然、そうした人材戦略のもとでは、企業側の求める人物像も変わります。1・2年生にはまだピンとこない話かもしれませんが、3年生は、もうすぐ始まる就職活動において、企業がどんな人材を求めようとしているのかを押さえて自己PRする必要があります。それを押さえない従来の自己PRでは、人事担当者の心を動かすことはできません。



黒住皓彦さん

ダイヤモンド・ビッグ社編集顧問
人事コンサルタント

PROFILE

くろすみ・ひろひこ ● 1941年生まれ。66年3月慶應義塾大学商学部卒業。広告代理店、広告制作会社を経てダイヤモンド・ビッグ社入社。就職情報誌各誌編集長、情報室長、編集委員を歴任し、現在、編集顧問。企業の採用コンサルティング及び大学生の就職カウンセリングを軸として、評論・講演活動に活躍。就職カウンセラーとして就職実践塾を主宰。

しています。

エンタリシートの記事や面接において、コンピュータスキルとかTOEICのスコアを武器にする人がいますが、好ましい結果は得られない。求められているのは、それらを使いこなす人そのものだからです。語学力やコンピュータのスキルは必要な条件ですが、即戦力ではありません。企業のいう即戦力とは、顧客のニーズを自社のビジネスにキチッと置き換えられる能力です。お客様が何を求めているのか？それを的確に引き出してきて、自社のビジネスの中に置き換えていく、相手に提案していく、その一連のビジネス活動を即戦力というのです。語学はそのためのツールではないのです。

この即戦力を支える自己啓発とコミュニケーション能力が、就職活動の大きなポイントになります。学生にとって一番難しく、時間がかかることですが、これらを培っていくために、日頃からゼミ活動・サークル活動の中で課題目標を設定し、自ら考え判断して、それらの目標達成に向けた道筋をつけるトレーニングをしておくことが大事です。是非とも、4年間の学生生活の中で少しずつ身に付けていってください。まだまだ企業にとって魅力的な体育系学生は、組織人としてのマインドが一般学生に比べ備わっていますが、自己啓発力などは不足しているように思えます。だからこそ、これらの能力（ビジネスマインド）を身につけたら、鬼に金棒だと思えます。

(10月3日 ダイヤモンド・ビッグ社にて)

自ら計画を立案・実行し、結果が出たら、そこから学んで次の仕事に生かせる、マネジメント能力と向上心に富む人。



香川昌慶さん

かがわ まさよし

ファーストキッチン株式会社
総務部マネージャー（採用担当）

ファーストキッチン株式会社●サントリーの100%出資のハンバーガーチェーン事業として、1977年創業。首都圏・関西を中心に118店舗を展開（10月1日現在）、内直営店約95%。近年、「大人のためのファーストフード」をコンセプトに、他ファーストフード店との差別化を図った店舗づくりを進めている。本年5月より、新規事業として「手づくりおにぎりキッチン(Om's)おむすび店」をスタート、来年度は採用者数を増やす予定。大卒は店長・マネージャー候補。日体大より過去2名入社。

私どもファーストフードの仕事は、お客様にいかにも満足してもらい、また来店していただくかを絶えず追求していくビジネスです。そのためには、お客様が何を望んでいるかを考えながら、どういう店づくりをするか、店のマネジメントの責任者である店長はアルバイトスタッフと意思統一を図りながら、チームプレイでそれを実現していきます。店にはオペレーションや接客に従事する20人〜70人ものアルバイトがいます。「二国一城の主」である店長は、彼らの採用・研修・トレーニングを司り、スタッフ全員を束ねていく力が必要です。ですから、この仕事は、人を通じて目標を達成していくヒューマンビジネスでもあります。

従って、私どもの求める人物像は、優れたマネジメント能力と人間的能力を兼ね備えた人です。マネジメント能力に優れた人というのは、計画を立案・実行して、その成功・失敗の結果が出たら、そこから学んで、次の計画・仕事に生かせる人です。

また、人間的能力に優れた人というのは、人の気持ちを掌握でき、決断力と行動力がある人です。チームプレイなので、スタッフの気持ちを掌握できないと、皆がソッポを向いて店が機能しなくなりますし、決断力がないと、スタッフが困ってしまいます。

さらに、日々の仕事に対し向上心を持ち、自分にとつての働く意義を持つてい人です。漫然と働くのではなく、将来、こんな仕事や分野で活躍したいという自分の夢や目標に向かって、そのために今日があるんだという人は、どんな仕事に就いても伸びていく人ですし、我々も欲しい人材です。

現在まで、日体大卒の入社はまだ二人だけですが、その素晴らしいさは評価されています。毎年、さまざまな大学の卒業生が入社しますが、日体大卒業生は、ヒューマンアプローチに優れ、幅広い年代からなるスタッフのハートをつかむのがうまく、明るさ、バイタリティーに溢れています。また、へこたれず、困難なことでも自分の中で強い信念を持つて前向きに取り組んでいける特性は、是非とも我が社にほしい人材です。

（10月7日 ファーストキッチン株式会社にて）

活躍するOB

セールスマンが社長で自動販売機が社員。売り方を工夫していくのは楽しい。



小倉正基さん

日本ペプシコーラ販売株式会社
横浜南支店

PROFILE

おぐら・まさき●1978年群馬県生まれ。2002年3月日本体育大学体育学科卒業。在学中はライフセービング部所属。保健体育教員免許取得。

私の仕事は営業セールスマンで、顧客に自動販売機を設置していただき、商品を補充して売上金を回収するフルサービスと、顧客のお店の前にある自動販売機に商品を卸す「レギュラーサービス」「売り手」として自動販売機ではなく、商品をお店のショールームなどに陳列するマーチャントダイジニングなど、仕事内容は大きく3つあります。

逗子から城ヶ島までの三浦半島エリアを担当していますが、このエリアは営業範囲が一番広く、支店から遠いところ。そのため、同じ支店でも他のセールスマンより帰社時間が1時間〜1時間半遅くなり、その後社内での事務処理、積み込み作業をすると、10時半頃になってしまうこともあります。三浦半島なので大好きな海を見ながら仕事ができることや、いろいろなお客様と話すことができ、デスクワークとは違った環境で自分を成長させることができるという楽しさもあります。

販売予算があり、日々予算を達成するためにみんながんばります。自分の時間がなかなか持てない時期がありますが、ひとりで回るため自分の工夫次第で仕事を進めることができました。一人ひとりのセールスマンが社長で自動販売機が社員と考え、四季があるように自動販売機も同じように季節によってコミミグを変えてやったり、新商品などを用意するコミミグしたり、ダミーの配列をきれいに並べるなどして、自分のセンスだけで売上が日に日に変わってくるのがわかる楽しさもあります。キツサは体育系根性で乗り切ります。

就職活動は、4年の秋までライフセービングに熱中していたので、漠然と民間企業に就職しようと思ったぐらいで、正直、明確な志望はありませんでした。公務員、教師もひとつの道としては考えていました。民間企業ではスポーツメーカーやスポーツショップなど自分に合いそうな会社を情報誌やインターネットで調べ、5〜10社の企業にエントリーしたり、説明会に行った程度です。

結局、2社から内定を受けましたが、ペプシを選んだのは、営業が向いていると思ったのと、飲料ビジネスに将来性を感じたからです。面接は4回ほどあり、応募の動機や入社後の目標、学生時代に自分が一番力を入れてきたことなどを聞かれました。「自分を採用しないと、御社は損しますよ」というぐらいの熱意で自己アピールしました。

就職活動においては、厳しい状況下にあっても焦らず、自分が本当にやりたい仕事や職種をじっくり考え、それにそって入社したい会社のことをよく調べてから就職活動を行ってください。自分のやりたい仕事に就かないと、安易に入社しても、俺の夢はこんなところで働くことだったのか？と疑問ばかり浮かんで来て、後悔することにもなりますから。

（10月6日 日本ペプシコーラ販売株式会社にて）

アスリートたち

インラインスケートクラブ

花田 哲

(体育学科4年)

スピードと
テクニックの闘いが
魅力の新しい競技です。

ファッション性とスピード感からか、今、インラインスケートは子どもたちに人気がある。しかし、インラインホッケーそのもののゲームルールや面白さはまだまだ一般的に知られることが少ないスポーツである。その魅力と醍醐味を学生としては初めて日本代表チームに選ばれた花田君に熱く語ってもらった。

―日体大のインラインスケートクラブの活動と、どんな大会があるかについて教えてください。

花田●クラブの人数は男女合わせて現在約40人で、1年生が一番多いです。練習は普段、駒沢公園で活動しています。クラブのある大学は関東でまだ10校もないと思いますが、社会人のクラブチームの方が多く、レベルも上です。ですから、僕も社会人のクラブチームにも入っています。6月頃に関東選手権、9月に社会人も加わった全日本選手権大会があります。世界選手権は毎年あり、去年は18カ国参加しました。去年の優勝はアメリカ、今年の優勝はカナダで、北米や欧州が強く、日本が5位に入るのは大変なことです。女子も全日本、世界選手権があり、女子キャプテンの吉田紫さん(健康学科4年)も今回初めて世界選手権に出場しました。

―インラインホッケーの魅力を教えてください。

花田●自分は身体が小さいので、アイスだと力勝負になり潰されますが、インラインだとスピードやテクニックの闘い。それはア

イスとは違った面白さがある、それに惹かれました。スピードはアイスの方が速いけど身体でブロックできる。しかし、インラインではスピード対スピードの闘いになります。また、インラインは誰でも始めやすいんです。僕たちのサークルは全員初心者。新しいスポーツをやりたい人はインラインをやれ、将来日本代表になって海外に行つてプレイしてほしいですね。

―日体大に入学して良かったこと、4年間の思い出を聞かせて下さい。

花田●3年生の時に、学生として初めて日本代表チームに選ばれたのは嬉しかったですが、キャプテンとして全日本選手権(Bクラス)で日体大が日本一になったことが一番の嬉しさです。また、いい仲間にも恵まれ、入学して本当に良かったと思います。

―今後の目標や夢を聞かせてください。

花田●就職はまだ決まっていますが、北海道にUターンして、勤めながらプレイを続けたいと思っています。

(10月12日 東京 世田谷キャンパスにて)

※本誌表紙を飾る



―インラインホッケーのルールを教えてください。

花田●ポジションはゴールキーパー、フォワード、ディフェンスで、1チーム5人(アイスホッケーは6人)でプレイします。試合は1ピリオド20分間で、10分ほどの休憩を挟んで2ピリオド行います。アイスと同じように防具に身を固めてスティックを持った選手がインラインスケートで走り回り、硬質ゴム製のパックを相手ゴールに入れ合った数で勝敗を決めます。ただ、アイスと違い、身体の接触プレイは禁止されています。



PROFILE ●はなだ・さとし●

1981年北海道生まれ。
釧路江南高校出身。
インラインスケートクラブ所属。社会人クラブのボーダー・バトリールにも所属。
高校時代はアイスホッケー部だったが、日体大に入学して初めてインラインホッケーを始める。
2001年の全日本選手権において、キャプテンとして日体大を日本一に導く。大学3・4年生の時、2年連続で全日本の代表チームに選ばれる。
身長166cm、体重56kg

中川 規子

(体育学科3年)

高円宮杯優勝を
ステップに、
アテネ五輪を目指したい。

白いユニフォームとマスクを着用しての華やかな格闘技・フェンシングは、第1回オリンピックから採用されている。今年3月の高円宮杯選手権女子フルールで優勝し、世界選手権大会の代表にも選ばれた中川規子さんに、フェンシングの魅力・面白さや今後の抱負などを語ってもらった。

—フェンシングを始めたのはいつ頃からで、キッカケは何だったんですか？
中川●中学時代はテニスをやっていたのですが、担任の先生から武生商業高校のフェンシング部の体験入部を勧められ、その結果、入学しました。それ以来、フェンシングのフルールをやっています。

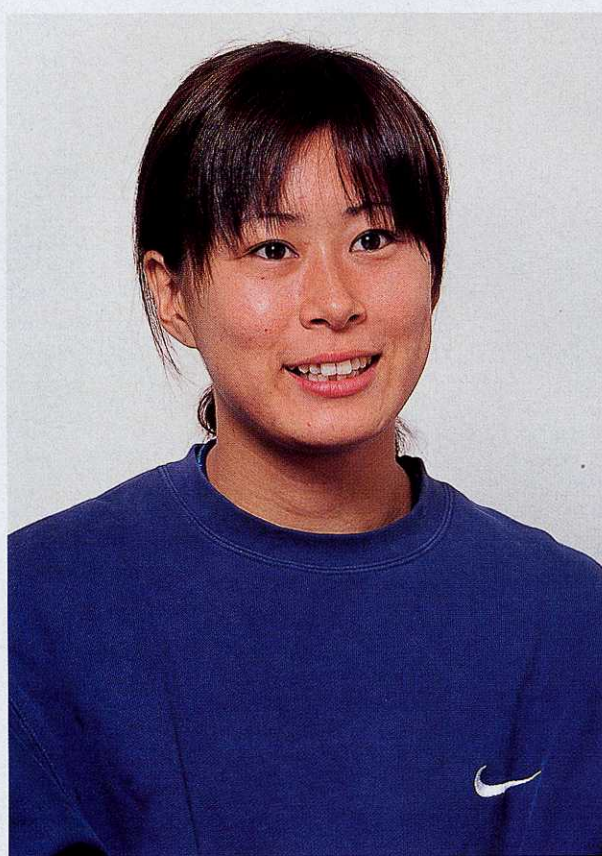
—日体大に入学した動機・理由は何だったんですか？
中川●動機は、高校の部活での先輩も入学していたこと、ナショナルチーム入りして上位ランキングで活躍されている人に日体大卒業生が多く、練習や刺激を受けることができると思ったからです。

—フェンシングの競技やルールについて教えてください。
中川●競技にはフルール、エペ、サーブルの3種目あり、それぞれ男女の個人・団体戦があり、日本ではフルールが多いです。勝敗は、相手の有効面をサーブルでは突

く・斬る、フルールとエペでは突きで競います。判定には電気審判器を用います。但し、フルールの有効面は、手とマスクを抜いた上半身の部分(背中も)、エペは全身どこを突いてもよく、サーブルは下半身以外ならどこでも有効です。

—フェンシングの面白さや魅力を教えてください。
中川●試合時間は5本勝負の時は3分、15本勝負の時は3分毎に1分の休憩をはさんで合計9分と、短時間で勝敗は決します。わずかなタイミングと時間、距離などが変わるだけで戦術が全然違ってきます。自分が攻めたくても、相手が違うことを仕掛けてくると決まらない。だから、自分が如何に巧く相手の裏をかくかの競技でもあります。相手との駆け引きが一番面白いところですね。

—今後の課題と取り組むことは？
中川●身長が低いので、相手とリーチの長さが全然違うんです。その小柄さを力



バーするために、フットワークを更に良くすることが課題です。とにかく動いて、タイミングで入るといのが重要になってくるので、フットワークを鍛え、タイミングをつくって、自分から攻められるようにすることに取り組んでいます。性格が負けず嫌いなんです。練習でも年下には絶対負けたくない。だから以前は、後輩に負けそうになると、早く突かなくちゃと逆に焦り、それで負けることが多かったんです。でも、最近は、熱くならないように、取られていても冷静に回りを見られるようになってきました。

—将来の夢と当面の目標を聞かせてください。
中川●将来の夢は、教員として福井県の母校でフェンシングを教えること、アテネ五輪に出場することです。今年、ナショナルチーム入りを果たしたのは、フルールでは学生は私だけですが、実は選ばれても1年で終わっていく選手も多いのです。でも、菅原先輩や新井先輩は何年も代表

PROFILE ●なかがわ・のりこ●

1981年奈良県生まれ。
福井県立武生商業高校出身。
フェンシング部所属。
高校3年の時、全国選抜とインターハイで団体2冠を達成。
2000年・2001年と2年連続で世界ジュニア・カデ選手権のフルール日本代表に選ばれる。
2001年ジュニア・オリンピック・カップ(ジュニアの部)女子フルール優勝
2002年2月、念願のナショナルチーム入りを果たす
同年3月、第11回高円宮杯フェンシング選手権(女子フルール)で優勝し、今年8月の世界選手権リスボン大会にフルール女子日本代表メンバーに選ばれ、出場。
身長157cm、右利き



選手でいるので、私も1年で終わらないように頑張りたい。来年は、五輪に出場できる権利を得ることができるとか、金の試金石となる大切な年。是非ともナショナルチーム入りして出場への足がかりを確保したいと思っています。

(10月12日、東京・世田谷キャンパスにて)



2000年世界ジュニア・カデ選手権／アメリカ・インド・ボリビア 右が中川選手

「第14回アジア競技大会」韓国・釜山

北島君の大会MVPを始め大活躍の本学関係者

9月29日から10月14日まで、韓国・釜山市で「第14回アジア競技大会」が開催され、本学からも在学生17名、卒業生を含めて74名の選手、27名の役員・コーチ・トレーナーなど、総勢101名が参加しました。

その活躍ぶりはみなさんご承知のとおりで、特に競泳の北島康介君(体育学科2年生)は、200m平泳ぎで2分9秒97という世界新記録(10年ぶり)を樹立するという快挙を成し遂げ、100m平泳ぎ、400mメドレーリレーにおいても金メダルを獲得し、見事、本大会のMVPに選出されました。

「おつかれさま。そしておめでとう」と言わせていただき、参加選手・役員のみなさまを紹介いたします。

■第14回アジア競技大会(9/29~10/14)韓国・釜山 本学関係日本代表選手団名簿及び成績

■陸上	役員	コーチ	原田康弘	78年卒	100m1次予選
	役員	コーチ	大森重宜	89年院修	銀メダル
	選手	選手	田島宜弘	学部4年	銅メダル
	選手	選手	安田寛	98年卒	円盤投9位
	選手	選手	小林史明	97年卒	走高跳5位
■水泳	選手	平泳ぎ	北島康介	学部2年	100m金メダル 200m金メダル・世界新記録 400mMR金メダル 大会MVP 200m金メダル
	選手	背泳ぎ	中村礼子	学部2年	銀メダル
	役員	水球・チームリーダー	宮崎昌樹	84年卒	銀メダル
	選手	水球	窪田文一	94年卒	銀メダル
	選手	水球	遠藤卓也	94年卒	銀メダル
	選手	水球	松原裕幸	02年卒	銀メダル
	選手	水球	長沼敦	学部2年	銀メダル
	選手	水球	塩田義法	学部2年	銀メダル
	選手	水球	佐藤太一	学部4年	銀メダル
	選手	水球	山本雅和	00年卒	銀メダル
	選手	水球	田中宏晃	00年卒	銀メダル
	選手	水球	佐藤賢	91年卒	銀メダル
	選手	飛込	宮本幸太郎	01年卒	10mシンクロナ4位
	選手	飛込	宮本基一郎	97年卒	10mシンクロナ4位
	選手	飛込	樋口まゆみ	01年卒	3m飛板銅メダル 3mシンクロナ4位
■ボート	役員	トレーナー	加藤知生	84年卒	
	役員	水球・ヘッドコーチ	大本洋嗣	90年卒	
	役員	飛込・コーチ	安永三郎	82年卒	
■バレーボール	選手	LM4-M8+	矢野彰男	01年卒	LM4銀メダル、M8銀メダル
	選手	LM4-M8+	久保武大	大学院2年	LM4銀メダル、M8銀メダル
	選手	W2X	大岩亜希子	大学院2年	ダブルスカル銀メダル
	役員	男子トレーナー	高橋仁	81年卒	銅メダル
	選手	女子トレーナー	山本健之	92年卒	銅メダル
■体操	選手	女子トレーナー	泉川正幸	93年卒	
	役員	ビーチバレー監督	甲谷洋祐	96年卒	
	役員	ビーチバレー	瀬戸山正二	87年卒	
	役員	技術スタッフ	尾崎侯	96年卒	
	役員	技術スタッフ	福田隆	56年院修	
■バスケットボール	選手	体操競技	水島寿思	学部4年	団体銅メダル、個人総合5位
	役員	女子コーチ	梅尾龍治	98年卒	
	選手	アシスタントコーチ	吉田悟	94年卒	6位
	選手		篠原隆史	00年卒	6位
	役員		大森篤史	00年卒	6位
■レスリング	選手		梅崎英毅	87年卒	4位
	選手		矢代直美	00年卒	
	役員	コーチ	柴和人	83年卒	銀メダル
	選手	フリースタイル55Kg級	田南部力	98年卒	予選リーグ
	選手	フリースタイル66Kg級	池松和彦	02年卒	予選リーグ
	選手	グレコローマンスタイル55Kg級	村田和也	00年卒	銅メダル
	選手	グレコローマンスタイル60Kg級	笹本健	00年卒	予選リーグ
	選手	グレコローマンスタイル74Kg級	永田克彦	96年卒	金メダル
	選手	グレコローマンスタイル84Kg級	松本慎吾	00年卒	予選リーグ
	選手	グレコローマンスタイル96Kg級	森角祐介	02年卒	
■セーリング	役員	コーチ	安達巧	89年卒	
	役員	トレーナー	佐々木康之	95年卒	
■ウエイトリフティング	選手	役員	小松一憲	71年卒	
	選手	56Kg級	山田政晴	学部3年	8位
	役員	女子監督	横山信仁	72年卒	
	選手	48Kg級	今岡益美	99年卒	8位
	選手	53Kg級	仲嘉真理	98年卒	6位
	選手	53Kg級	松宮紅美恵	01年卒	5位
	選手	+75Kg級	今鋒一恵	学部2年	5位
■ハンドボール	役員	トレーナー	赤尾和彦	89年卒	4位
	選手		松林克明	00年卒	4位
	選手		佐々木教裕	98年卒	4位
	選手		谷口了	99年卒	4位
	選手		田場裕也	98年卒	4位
	選手		宮崎大輔	学部2年	4位
	選手		茅場清	96年卒	4位
	役員		緒方嗣雄	44年卒	
	役員		松原光三	72年卒	
	役員		浦川一徳	92年卒	
■自転車競技	役員	総務	木内浩成	91年卒	
■ソフトテニス	選手		高川終生	95年卒	ダブルス5位
	選手		小暮秋二	98年卒	ダブルス5位、個人6位
	役員	コーチ	大橋元司	84年卒	
■フェンシング	選手	フルーレ	内山美花	97年卒	団体銅メダル
	選手	フルーレ	菅原智恵子	99年卒	団体銅メダル 個人準々決勝
■柔道	選手		北田佳代	01年卒	金メダル
	役員	女子コーチ	古賀稔彦	92年院修	
■ソフトボール	役員	総務	藤井まり子	83年卒	金メダル
	選手		高山樹里	99年卒	金メダル
■バドミントン	選手	団体、男子単・複	鈴木由香	学部4年	
	選手	団体、男子複、混合複	舩田圭太	01年卒	シングルス2回戦
■近代五種	選手		大東忠司	大学院2年	ダブルス1回戦
■ラグビー	選手		村上佳宏	99年卒	団体銅メダル
	選手		齋藤英之	98年卒	団体銅メダル
■カヌー	選手		黒白昭二	95年卒	団体銅メダル
	選手		勝野大	97年卒	銀メダル
■アーチェリー	選手		田沼広之	96年卒	銀メダル
	選手	カヤックフォア	松田淳司	学部2年	1000m銅メダル
■野球	選手	カヤックフォア	竹屋美紀子	学部4年	500m銅メダル
	役員	女子コーチ	池田幸一	86年卒	男子個人金メダル
■セパタクロー	役員	トレーナー	山本博	86年卒	
	選手		河野徳良	88年卒	スポーツ局
■スカッシュ	選手		鷹富美雄	00年卒	サークル銅メダル
	選手		矢野啓也	98年卒	サークル銅メダル
■サッカー	選手		相川真志	98年卒	リーグ銅メダル
	選手		石川恵子	00年卒	リーグ銅メダル
	選手		奥千春	00年卒	
	選手		渡辺祥広	92年卒	シングルス8位
	選手		松井千夏	00年卒	シングルス8位
	選手		丸山桂里奈	学部2年	銅メダル



北島君 長谷川学長に金メダル報告(10月9日)

■成績

金メダル 44個	内本学関係者 8個9名
	(内学生5個3名)
銀メダル 73個	内本学関係者 7個 18名
	(内学生4個5名)
銅メダル 72個	内本学関係者 13個 20名
	(内学生4個4名)

[上半期 クラブの主な大会成績]

クラブ名	大会名	結果	氏名
■アーチェリー	関東学生リーグ戦	男子・女子優勝(アベック優勝)	榎本静香
	世界学生選手権国内最終選考会	女子 優勝(日本代表決定)	山王和明
	フィールド選手権	男子 優勝	
	全日本学生王者決定戦	男子 準優勝	
	関東学生個人選手権	女子 優勝、準優勝	榎本静香、横尾可穂子
	全日本学生個人選手権	男子 優勝、準優勝	榎本静香、服部久美子
■ウェイトリフティング	全日本選手権	男子56kg級準優勝	山田政晴、山本茂令
		女子58kg級 優勝	川上知子
		女子63kg級 優勝、準優勝	塩見佳世、渡慶次雅子
		女子69kg級 優勝、準優勝	下玉利雄、田畑寿恵
	全日本学生個人選手権	男子62kg級優勝	山田政晴、山本茂令
		女子53kg級優勝	佐野美奈、石川ゆうか
■カヌー ■ゴルフ	全日本学生個人選手権	女子53kg級 5位	佐野美奈
	世界大学選手権	女子75kg級 5位	今井一恵
	世界ジュニア選手権	女子63kg級 9位	宮城寿子
	東日本学生個人戦	男子85kg級 準優勝	深代和良
		女子48kg級 優勝、準優勝	菊池由美恵、光畑明美
		女子53kg級優勝	58kg級優勝
■柔道 ■水泳・競泳	東日本大学対抗戦	女子75kg級 優勝、準優勝	増田理恵、塩見佳世、下玉利雄
	全日本学生選手権	男子94kg級 準優勝	増田知恵美、真下智恵美
	関東アマチュア選手権	女子カヤックリレー 優勝	大森勤
	全米オープン	優勝	
	全日本大学ゴルフ対抗戦	86位(予選)	甲斐慎太郎
	関東女子学生選手権	男子 準優勝	清田太一郎
■少林寺拳法	個人優勝		真鍋早彩
	個人準優勝		安田記子
	個人男子 準優勝		甲斐慎太郎
	個人優勝		清田太一郎
	男子 準優勝		甲斐慎太郎
	総合優勝(松平杯受賞)		
■柔道 ■水泳・競泳	男子3段以上の部 優勝		上杉嘉紀、岩本義隆
	女子2段以上の部 優勝		三浦麻美、高橋鈴枝
	女子2段以上の部 準優勝		井上佳世、結城里佳
	男子団体の部 優勝		
	女子団体の部 優勝		
	男女有段の部 準優勝		
■柔道 ■水泳・競泳	女子初段の部 準優勝		
	男子3人掛の部 準優勝		
	男子単演の部 準優勝		
	女子単演の部 準優勝		
	男子66kg級 優勝		
	男子50m平泳ぎ 6位(日本新記録)		
■柔道 ■水泳・競泳	男子100m平泳ぎ 銀メダル		
	男子200m平泳ぎ 4位		
	女子200m背泳ぎ 銀メダル		
	男子50m・100m・200m平泳ぎ 優勝		
	女子100m・200m背泳ぎ 準優勝		
	男子100m平泳ぎ 優勝		
■柔道 ■水泳・競泳	女子100m・200m背泳ぎ準決勝		
	女子100m・200m背泳ぎ 優勝		
	男子1500m自由形 優勝		
	学校対抗女子 優勝(5年連続12度目)		
	男子優勝	女子準優勝	
	男子優勝	女子優勝(アベック優勝)	
■柔道 ■水泳・競泳	女子シンクロナイズト高飛込 優勝		
	女子シンクロナイズト高飛込 準優勝		
	女子学校対抗 優勝(6年連続20度目)		
	団体 準優勝		
	個人戦 優勝、準優勝		
	男子個人中量級 優勝		
■柔道 ■水泳・競泳	無差別級 優勝		
	男子ダブルス優勝		
	女子 準優勝		
	女子 優勝(2年連続8度目)		
	男子 優勝(3年連続25度目)		
	個人総合 4位(アジア大会代表決定)		
■柔道 ■水泳・競泳	男子個人準優勝	鉄棒優勝	
	女子団体 優勝		
	大学 優勝(2年ぶり7度目)	短大 準優勝	
	男子 優勝(4年ぶり20度目)		
	女子 準優勝		
	男子シングルス 準優勝		
■柔道 ■水泳・競泳	ダブルス 優勝		
	女子シングルス・ダブルス 優勝		
	男子優勝	女子優勝(アベック優勝)	
	男子シングルス 優勝		
	男子ダブルス 準優勝		
	女子シングルス 優勝		
■柔道 ■水泳・競泳	男子シングルス・ダブルス 出場		
	男子シングルス準優勝	ダブルス5位	
	女子シングルス5位	ダブルス3位	
	男子準優勝	女子優勝	
	男子優勝		
	男子シングルス 優勝、準優勝		
■柔道 ■水泳・競泳	男子ダブルス 優勝		
	男子ダブルス 準優勝		
	女子シングルス 優勝、準優勝		
	女子ダブルス 準優勝		
	男子優勝(2年ぶり7度目)		
	女子フルール優勝(4年ぶり5度目)		
■柔道 ■水泳・競泳	女子サーブル・総合優勝(初)		
	サーブル 個人3位、団体優勝		
	フルール個人・団体 出場		
	M2x 準優勝		
	M4x 準優勝		
	女子準優勝		
■柔道 ■水泳・競泳	男子十種競技 優勝		
	男子100m 準優勝		

上半期二コース

長谷川学長
モンゴル国訪問記

本学名誉博士の第一号であるモンゴル国国家
大会議のサンジベグジン・トゥムルオチル議長閣
下の招聘により、本学学長が7月10日から7月15
日という日程でモンゴル国を訪問されました。

モンゴル国は、面積が日本の約4倍、世界で1
7番目に大きい国です。人口は約230万人で、
その約3分の1が首都ウランバートル(赤い英雄
の意)市に集中しています。モンゴルは青い空と、
どこまでも続く広い草原の国。人々の多くは今
も遊牧生活を送り、家畜たちと共存をしていま
す。彼らの暮らす家は、モンゴル語で「ゲル」と言
うフエルト製の丸いテントで、その「ゲル」にはチ
ンギスハーン」の肖像画が祀られ、チンギスハーン
がモンゴルの英雄であり、人々の崇拜の対象であ
ることが分かります。1992年に国名を「モンゴ
ル国」と改称し、自由主義経済へと移行、近代化
を図ろうと、日本・韓国などアジアに向けて文化
的・経済的に関係を深めています。

モンゴル国を訪問したのは、長谷川正明学長と
嚮子(ようこ)夫人及び随行の高秀二学長室
事務長の3名です。一行は、この4月から就航し
たモンゴル航空の直行便で10日(水)午後1時30
分に成田から出発、約6時間半(途中、給油のた

め韓国インcheon(空港経由)のフライトで首都ウ
ランバートル市に到着しました。この時期モンゴ
ル国では「サマタイム」が実施されており、日本
との時差はまったくなく、午後8時ごろの到着で
した。モンゴル国会国際交流部や駐モンゴル国日
本大使館の方々の出迎えを受け、滞在予定の迎
賓館に直行。その迎賓館のある広大な敷地は、
全て政府が管轄する場所、大統領や首相、国
会議長ら政府要人の公邸も同じ敷地内にありま
す。迎賓館に到着後、学長一行は駐モンゴル国特
命全権大使である当田大使同行のもと、トゥム
ルオチル議長閣下を表敬訪問。その後、大使主
催の夕食会に招待されました。

翌7月11日(木)は、午前中に国会議事堂(政府)
を見学。国会事務総長との会談も行われました。
午後からは、毎年この時期(1921年モンゴル革
命の記念日)に行われる民族の一大祭典である
「ナードム」を開会式から観戦。ナードムはモンゴ
ル国の全国各地で開催されますが、首都ウラン
バートルのものが最大規模で、「もののふの三つの
技」と呼ばれる相撲、競馬、弓射の民族スポーツ
が競われます。

その日の夜、ナードム祭のレセプションが開催
され、学長一行も議長閣下の招待を受けて出席
しました。主催者側としてバガバンディ大統領、
エンフバヤル首相、トゥムルオチル国会議長ら政
府首脳が出席した他、被招待者として各国、各



議長閣下表敬訪問(向
かって左から当田大
使、学長夫人、長谷川
学長、トゥムルオチル
議長閣下、議長夫人



ナードム祭開会式の入場行進

方面の要人等総勢200名以上が出席するとい
う盛大な催しでした。

7月12日(金)朝、13世紀に世界の文化の中心
地であったカラコルムへ向けて出発、陸路約400
kmを車で移動、約6時間かけて現地に到着。到
着後学長一行は、遊牧騎馬民族のゲルの訪問、乗
馬(モンゴル国の馬は、日本のサラブレッドより一
回り小さい)、モンゴル伝統の民族音楽と舞踊の鑑
賞というスケジュールをこなされ、その夜は「ゲル」
に宿泊となりました。長谷川学長は、夜空を埋
め尽くす星々や生まれてはじめて見る地平線に
大変感動されたと感じを述べておられました。
翌7月13日(土)には、1586年にアブダイハーン
によって建立された仏教修道院エルデニ・ゾーを見
学、往時の栄華が偲ばれる壮大であったとのこ
とです。

7月14日(日)、カラコルムからウランバートル市
に戻った学長一行は、午前中に市内の自然博物
館で、恐竜の化石(モンゴル国は世界で一番恐竜
の化石が出土している)やラクダ(主にモンゴル国
のゴビ砂漠に生息するラクダはひとこぶであり、
馴染みの深いふたごぶラクダは、アフリカ方面に
生息している)の剥製などを鑑賞し、モンゴル国
の豊かな歴史に触れ、感慨を新たにしたいそう
です。午後にはモンゴル体育大学のラグバスレン学
長との会談が開かれました。その際、長谷川学長
に対して記念品として「馬頭琴(さおの頭部に馬
頭をかたどった装飾のある擦弦楽器)」が贈呈さ
れ、長谷川学長からは「是非、馬頭琴が奏であ
れるように努力したいと思います」とのお礼の言葉
が述べられ、なかなか雰囲気うちに会談が終
了したとのことでした。

この夜、翌日に帰国を控えた学長一行は、トゥ
ムルオチル議長閣下主催の夕食会に招かれ、迎賓
館において議長ご夫妻及びご令嬢、国会事務総
長、国際交流部長といった方々と懇談され、帰国
前夜は、モンゴル談義に華がさいたそうです。

7月15日(月)すべてのスケジュールを予定通り
こなされた学長一行は、午前9時30分ウランバ
ートル空港発の成田直行便でモンゴル国を後にし
ました。

『オープンキャンパス
2002』報告 入試広報室

7月27日・9月28日、横浜・健志台キャンパス、
7月28日、東京・世田谷キャンパスにおいて『オ
ーペンキャンパス2002』を延べ3日間にわた
り開催しました。

この催しは、高校生、保護者、高校教諭のみ
なさんに大学へ実際に足を運んでいただき、教
育理念、教育・研究内容、クラブ活動、入試概
要等について理解を深めていただくもので、今
年で14回目の開催となりました。

参加者数は、横浜・健志台キャンパスが2日
間計872名、東京・世田谷キャンパスが853
名で、延べ参加者数は昨年のほぼ2倍でした。

実施プログラムは次のとおりで、参加者はど
のプログラム・ブースにも自由に参加できる形
で行いました。

- 総合ガイダンス(主催者挨拶、学科・科の紹
介、入試概要、学生生活・就職状況説明)
- 模擬授業(体育学系・保育学系授業の体験)
- 個別相談(学問・資格ブース、学生生活・学
友会ブース、就職ブース、入試ブースでの個
別相談)
- キャンパス案内ツアー(学内施設を在学生が
案内)
- 在学生懇談(在学生とのフリートーク)
- 各種資料配布(大学・短大案内、入試過去問
題集、シラバス、学生寮案内等の配布)

参加者アンケート
からは「大学の様子
がよくわかって、来て
良かった」と好評をい
ただきました。

今後さらに、プロ
グラムの改善を図
り、より充実したも
のにしたいと思いま
す。



[平成14年度在籍者数]

■日本体育大学

平成14年5月1日現在

区 分	1 年	2 年	3 年	4 年	合 計
体育学科	847 (212)	881 (191)	932 (259)	931 (216)	3591 (878)
健康学科	174 (87)	185 (90)	179 (82)	195 (100)	733 (359)
武道学科	127 (28)	127 (29)	124 (32)	104 (20)	482 (109)
社会体育学科	175 (44)	187 (51)	189 (69)	211 (82)	762 (246)
合計	1323 (371)	1380 (361)	1424 (442)	1441 (418)	5568 (1592)
体育専攻科	19 (2)	—	—	—	19 (2)
大学院博士前期課程	33 (8)	40 (11)	—	—	73 (19)
大学院博士後期課程	7 (4)	7 (1)	5 (1)	—	19 (6)
合計	40 (12)	47 (12)	5 (1)	—	92 (25)

()は女子内数

■日本体育大学女子短期大学

区 分	1 年	2 年	合 計
体 育 科	142	142	284
保 育 科	69	62	131
合 計	211	204	415



平成14年度入学式
(横浜・健志台キャンパス)



7月31日、東京・世田谷キャンパスにおいて、短期大学主催(後援:世田谷区教育委員会など)による第11回「幼児教育講座」が、『子どもの健康と幸せな環境づくり』のテーマで開催され、67名の幼児教育に携わっておられる方々が参加いたしました。

今回の講演は、小児科医でいらっしゃる国士館大学の梶沢靖弘教授に「子どものアレルギー」についてお話いただきました。幼稚園・保育園、家庭での子どもの事例を取り上げられ、わかりやすくお話いただき、対処法についても具体的に教えていただきました。また、午後の実技では、本学の幼児体育担当の時本久美子教授による「運動遊び」で、体育館で汗をたくさんかきながら、子どもの運動遊びを体験しました。そして、本学の竹林実紀子専任講師による「うたを楽しむ・音を楽しむ」では、身近にあるものを使って音を出す楽しい遊びを体験しました。

来年も、実技を中心にご参観いただけます。

第11回「幼児教育講座」

平成14年度「公開講座」

10月14日(体育の日)、東京・世田谷キャンパスにおいて、「子どもの心」から「心」を考えるⅡ」のテーマで、平成14年度公開講座が多数のご参加を頂き開催されました。

各講座への参加者数は次のとおりです。

- ① 講演「疲れたという子どもたち」 37名
- ② 実技「再発見!!わたしのからだ」 48名
- ③ 実技「みんなであそびまわろう」 94名
- ④ 「体力測定」 170名

また、公開講座の開催にあたり世田谷区教育委員会を始め、関係各方面の方々にご協力いただきましたことに深く感謝し、御礼を申し上げます。

今後とも、皆様のご期待に沿えるよう、公開講座の開設に努めて参りますので、ご理解、ご協力を宜しくお願いいたします。

平成14年度「庶務課長会 職員基礎研修会」

8月1日、2日の2日間、横浜・健志台キャンパスにおいて、私立大学庶務課長会が主催する平成14年度「庶務課長会職員基礎研修会」が開催され、138名の私立大学職員の方々が参加されました。

1日目の午前は、桜美林大学諸星裕副学長から「大学の管理と運営」をテーマにご講演をいただき、午後はランダム編成によるグループ研修を行いました。

2日目の午前は、本学の学生カウンセラーをご担当いただいた田口ヤス子先生から、「学生の理解を深める対応のあり方」をテーマにご講演をいただき、午後は、業務別編成によるグループ研修を行いました。

両日の研修により、少しでも日頃の仕事をを行う上での悩みの解消に役立ち、かつ、人的ネットワークの構築に貢献できたと感じていただけたらと思います。



「日本育英会奨学生」 採用状況

日本育英会奨学金は国の育英事業で、本学で推薦している奨学金制度の中で最も採用数の多い奨学金です。現在、大学、大学院、短大合わせて1,512名がこの奨学金制度を利用しています。今年度も4月に全学生を対象に募集を行い、384名が応募し、323名が新規採用されました。(詳細は左記の表のとおり)

4月の定期採用以降、追加募集が行われることもありますので、今後希望される方は学内の掲示に注意してください。また、家庭状況の急変などで急ぎ奨学金が必要となった場合は、早めに各キャンパスの奨学金担当(東京・世田谷キャンパス:学生課、横浜・健志台キャンパス:教学局)までご相談ください。

■貸与月額 (平成14年度採用者実績)

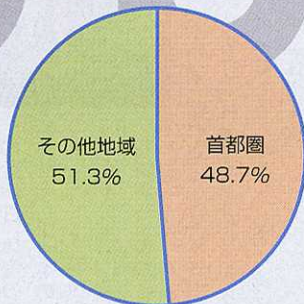
		第一種（無利子）		きぼう21プラン （有利子／年利3.0%以内）
		自 宅	自宅外	
大 学		51,000	61,000	3,5,8,10万円から選択
専 攻 科		51,000	61,000	3,5,8,10万円から選択
大学院	博士後期課程	119,000		5,8,10,13万円から選択
	博士前期課程	85,000		
短 大		50,000	57,000	3,5,8,10万円から選択

■採用状況 (平成14年度)

	応募人数	採用人数
大 学	338	290
専 攻 科	5	5
大学院	3	3
	14	8
短 大	24	17
合 計	384	323

学生課/03-5706-0904
教学局/045-963-7900

■【入学者の出身別比率】



●「首都圏・その他地域」の比率を大学・短大別に見ると、大学46対54、短大66対34であり、大学については完全に全国型である。

オピニオン

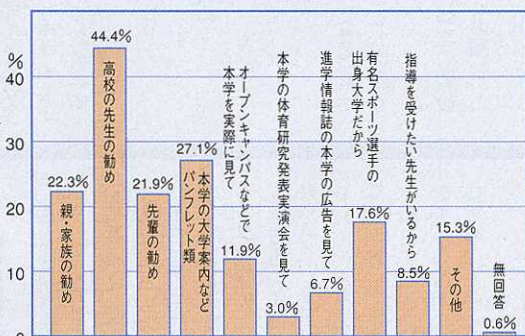
高校生に見る日体大の魅力度

～入学者アンケート結果報告から～

体育系の大学は全国に数多くある。高校生は、日体大をいつ頃知り、受験の最終決定をしたのだろうか？そして、志望の決め手になったものは何だったのだろうか？また、本学は第一志望なのだろうか？本学の「体育研究発表実演会」を見たことはあるのだろうか？

そうした疑問を解明するために、本年4月、入学したばかりの新入生にアンケートを試みた。そのアンケート調査の集計結果（リクルートの集計結果報告）が出たのでその一部を報告する。その集計結果を通して高校生にとってのNITTAIDAIを探ることは、社会における日体大の認知度と高校生にとっての日体大の魅力度を探ることでもある。

なお、グラフは全て大学・短大合算集計である。



●志望の決め手となったベスト3は、1.高校の先生の勧め、2.本学の大学案内などパンフレット類、3.親・家族の勧め、となっていることから、志望を決めた最後の一押しは、「親しい人からの言葉」と考えられる。

特に、「高校の先生の勧め」のポイントが高いのは、体育・スポーツの教員・指導者に日体大卒が多く、日頃から生徒との関係も良好で、日体大を勧めるその教員を信頼しているからと思われる。

●フリーコメントでは、「体育・スポーツをやりたいから」「体育教師になりたいので」「恩師が日体大出身だから」などの理由が目立った。

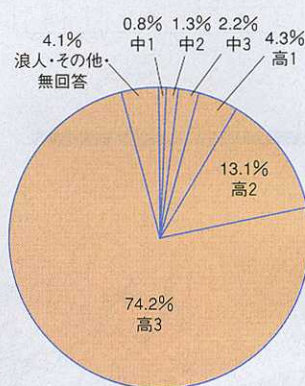
■【志望の決め手】

本学を志望する決め手になったのは何ですか？
(複数回答可 3つ以内)

●受験の最終決定時期は、高校3年生（74.2%）である。但し、高校2年生においても、13.1%は「最終的に」決定している。

一般的には、第一志望校は早期に決定していることが多くと考えられるが、体育・スポーツの好きな高校生が、やや時間をかけて大学への進学意識を醸成しながら、日体大を第一志望としていく様子が考えられる。

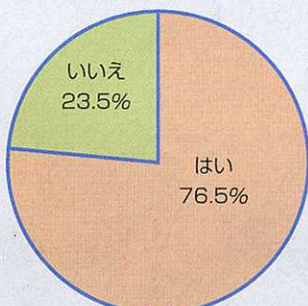
●「首都圏・その他地域別」の集計結果によると、「その他地域」の82.7%が高校3年生に最終決定。地元「首都圏」の71.0%よりも10%以上遅くなっている。



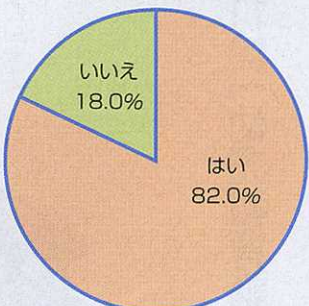
■【受験最終決定時期】

本学受験を最終決定したのはいつ頃ですか？

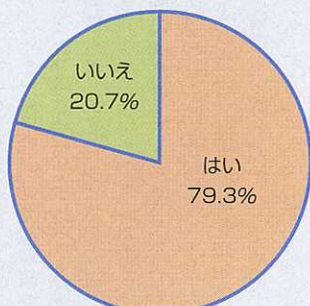
■【出身別—その他地域】



■【出身別—首都圏】



■【全体】



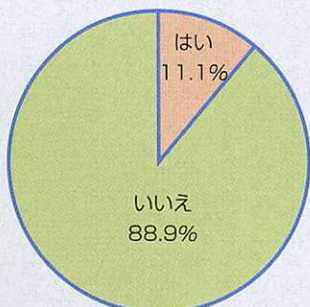
■【第一志望比率】

本学は、第一志望でしたか？

●第一志望比率は、約80%と極めて高い数字になっている。

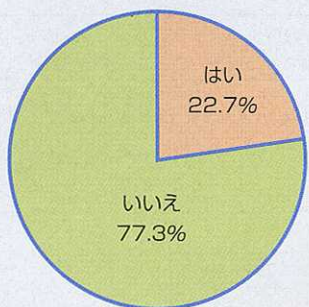
●「首都圏・その他地域別」では、「首都圏」の82%が第一志望層。それに対し、「その他地域」は5%ほど落ちる。

●受験校数別の調査結果では、入学者の内、60.3%が日体大のみの受験となっている。その他の受験校としては体育系が35.1%、体育系以外が8.1%となっている。また、他大学受験者（体育系）の受験校数は、1校が26.7%、2校が12.6%、3校以上が7.7%である。



■【体育研究発表実演会】

本学の体育研究発表実演会を見ましたか？



■【オープンキャンパス】

オープンキャンパスへ参加しましたか？

●実演会への参加率は意外低く、11.1%にとどまっている。出身別では、「首都圏」は約19%、「その他地域」は約4%が参加。

●実演会の情報としては、「高校（学校）から」「高校の先生」「オープンキャンパス」という答えが目立つ。

●入学者のうち、男性は約16%、女性は36%がオープンキャンパスへ参加。

●入学者のうち、首都圏出身者の約37%、その他地域の約9%がオープンキャンパスへ参加。

●推薦入試による入学者の約19%、一般入試による入学者の約26%がオープンキャンパスへ参加。

●学科別では、体育学科約16%、健康学科約33%、武道学科約12%、社会体育学科約30%、体育科約46%、保育科約41%がオープンキャンパスへ参加。

日体大の魅力は全国区

【総評】
大学に関しては基本的に全国区で、北海道から沖縄まで全国に日体大の認知度が浸透しているのがわかる。
●高校生が第一志望として日体大を最終的に決める時期は「高校の先生の勧め」が大きい。複数回答であるが親・家族の勧めを合わせて88.6%と9割近くにもなる。受験生より上の世代に浸透している日体大のイメージとパンフレットの大きさに、改めて驚かされる。



このコーナーは、「日体大に関する感想・意見」を取材や投稿により紹介するページです。学生をはじめとして保護者・卒業生・高校生・一般の方から、さまざまな感想・意見をいただきました。今後も「みんなの広場」へ自由な声をお寄せください。

●がんばってほしい

『平成14年度入学式』

(新入生の保護者、横浜・健志台キャンパスにて取材)

早いもので、息子ももう大学生になったのだなと実感しました。少し遠くに行ったのかなという気さえます。

中学・高校と部活でがんばって、あこがれの日体大に入学できたことは、親としても同じ嬉しさです。でも、ここがゴールだとは思ってほしくありません。高校までと違って、授業、部活、全てにおいて自分自身がしかりしないと、これまでと違って口うるさく言うこともそうないでしょうからね。

4年間はあつという間だと思えます。とにかくたくさんの仲間をつくって、いろんな経験をして、自身をもって社会に出られるようがんばってほしいと思います。

●参加して本当に良かった

『公開講座』

(公開講座参加者、東京・世田谷キャンパスにて取材)

このキャンパスからはそう遠くない所に住んでいます。近くを通るといつも学生さんの元気な声が聞こえていますよね。

大学のホームページを見てこの公開講座を知り、参加させていただきました。テーマが子どものからだに関するもので、いつもはテレビゲームばかり

やりやってくる息子を連れて、今日は親子で思いっきり汗を流しました。やはり、からだを動かすことはとても重要だということを改めて知らされたと同時に、子どもと同じことを行うことによって親子の親密感というか、今日は子どもとたくさん話ができました。

それと、グラウンドの人工芝は本当にすばらしいのひとことですね。こういった環境がもつ子どもたちの身近にあれば、自然にからだを動かす機会が増えるでしょうね。

少しばかり筋肉痛が心配ですが、今後ともこのようなチャンスを広げていただけたらと思います。ありがとうございました。

●充実の海浜実習

『平成14年度海浜実習』

(学部1年女子学生、千葉県岩井海岸・実習場にて取材)

日体大に入学して最初の野外実習、海浜実習は私にとって絶対に忘れることのできない思い出になりました。

これまで話をしたことのない同級生と、3泊4日同じ宿でたくさん話ができ、これからの学生生活にゆとりができたと思います。そして3日目、実習で最大の難関、大遠泳。正直、泳ぎは得意というわけではありませんでした。しかし、仲間と一緒に声を出し約4キロを泳ぎきった自信は、ふだんの生活の中では得られるものではないと思います。浜に上がるときには涙が出ました。迎えて

くれたみんなも一緒になって大遠泳をやったんだと喜び合いました。

他にも野外実習はたくさんあるので、できる限り参加していろんなことを経験したいですね。

●日体大生ってカッコイイっす！

『オープンキャンパス2002』

(高校3年男子生徒、横浜・健志台キャンパスにて取材)

今日のオープンキャンパスは、大学でもらった資料を見て早くから知っていました。健志台キャンパスにも、世田谷キャンパスにも何回か来ています。野球場、サッカー場、ラグビー場、体育館など、僕の高校とは比べようもなく、一日も早く入学したいですね。

受験対策は、筆記を中心にやっています。実技は、今のレベルを落とさないように、ランニングと柔軟体操、友達を引き込んでバスケットの練習をしています。個別相談でもアドバイスされたのですが、ケガをしただけ何ともありませんもんね。それだけは注意しようと思います。

日体大生の印象は、とにかくカッコイイっす！みんな明るくて、何か自分の道を歩んでいるっていうか…。それと、何をやるにもスピード感がありますよね。僕もそんな日体大生になります。

●生徒は正直です『教育実習』

(大学・体育学科4年男子学生、東京・世田谷キャンパスにて取材)

体育の先生を目指して日体大に入学して、出身高校で教育実習を行いました。

3年間、授業で学んだことや先生からのアドバイスを通じて多くのことを知識として身に付けたつもりでした。実習校に入って、校長先生や担当の先生から「思いっきりやってみなさい」とおっしゃっていたものの、生徒を前にすると、考えていることと口から出てくることはどのくらい戸惑いのスタートでした。

でも、あることがきっかけで実習が楽しくなりました。それは、やはり部活動を通じて生徒とのコミュニケーションができるようになったことです。生徒は正直です。自分が不安げに話しかけたり教えたりすると、応えてくれないのです。しかし、うちが思ったこと教えたことを生徒と同じ目線で伝えようと、行動に移してくれるのです。そうすると今度は生徒の方から声を掛けてくれるようになったのです。それからは、授業を行っても部活で仲良くなった生徒を通じて、みんなが動いてくれるようになりました。

今年の教員採用試験はうまくいきませんでした。が、いつかきっと生徒と正直な関係を保てるような先生になります。

■このコーナーへ、手紙・FAXで自由な声をお寄せください。
郵送／〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1
日本体育大学・日本体育大学女子短期大学
『NITTAIDAI』みんなの広場宛
FAX／03-5706-0949

I N F O R M A T I O N dot. NITTAI

■学年暦 (平成14年11月以降のもの)

月	日(曜日)	行事
11	1(金)～3(日)	日体フェスティバル
12	20(金) 20(金)～24(火) 24(火)～28(土) 24(火)～	12月授業終了 大学 スキー理論・実習(社会体育学科2年) 大学 スキー指導実習(体育・健康・武道学科2年) 第1回(ニセコ) 短大 スキー実習(1年) 冬期休業【1/5(日)まで】
平成15年 (2003)		
1	6(月) 21(火)～25(土) 25(土) 27(月)～	1月授業開始 後学期定期試験期間 後学期授業終了(試験含む) 短大 教育実習1(保育科1年)【2/15(土)まで】
2	1(土)～5(水) 7(金) 6(木)～15(土) 7(金)～19(水) 20(木)～23(日) 19(水)～22(土)	平成15年度入学試験 後学期成績提出締切日 大学 スキー指導実習(体育・健康・武道学科2年) 第2・3回(志賀) 短大 スキー実習(1年) 大学 スケート指導実習(体育・健康・武道学科3年) 短大 スケート実習(2年) 大学 スケート理論・実習(社会体育学科3年) 介護等体験事前指導講習会 (体育・武道学科2年 健康・社会体育学科1年 第1・2・3回)
3	12(水)～25(火) 1(土)～7(金) 10(月) 11(火) 11(火)～20(木) 18(火)～28(水)	短大 スポーツ現場実習(体育科生涯スポーツコース1年) ホームルーム期間(成績ガイダンス含む)(全学年) 次年度履修申告手続き期間(大学1～3年・短大1年) 就職オリエンテーション(大学3年・短大1年) 卒業式 春季休業 伝統文化交流実習・外国語実践実習(武道学科3年) 国際交流実習(体育科生涯スポーツコース1年)

■平成15年度入試日程 お問い合わせ先／入試広報室 TEL03-5706-0910

募集区分	願書受付	試験日	合否(合格)発表
<学部>			
推薦入試Ⅰ期	11/1～11/8	12/1	12/5
推薦入試Ⅱ期	12/6～12/9	12/15	12/17
一般入試	12/18～1/14	2/2・3 2/4・5	2/11
帰国子女特別選抜	11/1～11/8	12/1	12/5
研究生・科目等履修生・聴講生	3/7・11	3/13	3/15
編入学	1/6～1/10	2/1	2/11
<大学院>			
博士前期課程Ⅱ期	2/10～2/14	3/1・2	3/3
博士後期課程	1/20～1/24	2/18	2/19
研究生	2/27～3/5	3/13	3/15
科目等履修生	3/5～3/11	3/13	3/15
<専攻科>	3/3～3/7	3/13	3/15
<短大>			
推薦入試	11/1～11/8	12/1	12/5
一般入試	12/18～1/14	2/1	2/11
帰国子女特別選抜	11/1～11/8	12/1	12/5
科目等履修生・聴講生	3/7・11	3/13	3/15

※博士前期課程Ⅰ期は日程終了

■平成14年度就職支援講座

お問い合わせ先／就職課TEL03-5706-0905

平成14年11月以降、世田谷キャンパス(世)、横浜キャンパス(横)で実施されるもの

公務員試験対策講座

公務員採用試験対策講座を90分30コマ(2週間程)

10/28(月)～(横)

11/28(木)～(世)

公務員採用説明会

警察官、消防官、自衛隊の採用担当者による、採用状況、採用試験におけるアドバイス講座

11/25(月)(世・横)

11/26(火)(世・横)

11/27(水)(世・横)

教員採用試験対策講座

OB教員による具体的な集団面接、個人面接模擬授業等アドバイス講座

12/2(月)(世)

12/6(金)(横)

養護教諭採用試験対策講座

OB教員による採用試験に関するアドバイス講座

12/5(木)(世)

企業・公務員を対象とした就職活動講座

就職アナリストによる具体的な面接等アドバイス講座

12/9(月)(世)

12/16(月)(横)

学内合同企業説明会

企業採用担当者による企業の業務内容、採用状況等の説明会。企業ごとにブースを設け実施

1/18(土)(世)

教員採用模擬試験

2月予定

就職活動1日体験

筆記試験(一般常識・SPI) エントリーシート、面接、一連の流れを模擬体験

2/26(水)(世)

2/27(木)(横)

教員採用模擬試験

3月予定

公務員採用模擬試験

3月予定

【編集後記】世界新記録樹立!なんと心地よい響きでしょう。韓国・釜山市で開催された「第14回アジア競技大会」における、本学体育学科2年生北島康介君の200m平泳ぎとしては10年振りの快挙は、本学にとっても歴史的なことで、みんなに大きな笑顔を与えてくれました。本誌編集作業も大詰めとなっていました。急遽、特報!として大会全体の本学関係成績を掲載することができました。もちろん競技スポーツですから、良い結果もそうでなかった結果も受け入れなくてはなりませんが、卒業生を含め74人の選手が出場したという事実は成績以上に嬉しいことです。

2004年にはアテネオリンピックが開催されます。日夜クラブ活動に一生懸命取り組みががんばっている本学学生の中からまた新たなヒーロー、ヒロインが誕生することを、みんなで祈りましょう。